

一般社団法人 日本応用地質学会
令和3年度・2021 年度
第4回国際委員会・IAEG JAPAN 運営委員会 議事録(案)

日 時 : 2021 年 12 月 17 日 (金) 15:00~17:30

場 所 : 国際航業株式会社 本社会議室、Zoom を用いた Web 会議(併用)

出席者 : 長谷川委員長、菊地副委員長、昆委員、徳楠委員、水野委員、百嶋委員、安田委員、山下委員、山田
幹事

委任状提出: 加地委員、越谷委員、百瀬委員

陪席: 千木良 IAEG Japan National Group 代表、茶石顧問

議事:

1. 前回議事録(案)の確認

- ・前回(2021 年 10 月)に開催した委員会の議事録(案)を了承した。

2. 理事会報告

- ・令和 3 年度第 7 回理事会の内容について報告がなされた。

3. IAEG JAPAN 運営委員会活動について

(1) IAEG 事務連絡

1) IAEG Newsletter 関連

- ・2021 No.4 原稿提出の締切りが 12/28 のため、令和 3 年度研究発表会(10/14-15)の素材(Web開催状況の写真と参加者数等の情報を事務局等から取り寄せ)で準備を進める。
- ・2022 No.1 の投稿原稿については、軽石災害などを素材として 2 月末を目処に準備を進める。

2) アジア各国との交流について

<韓国>

- ・KSEG 秋季研究発表会で行われた招待講演者による講演の状況について報告がなされた。
- ・録画動画のIAEGへの Webinar 投稿については、KSEG での公開終了を確認した後に、関係方面への確認を取った上で提供準備を進める。
- ・KSEG から JSEG への講演受け入れは、コロナ禍が収束する 2022 年度以降とする。来年度(シンポジウム、研究発表会、若手技術者交流会など)に実施する場合は、早めに理事会へ話を通しておく。

<CHINESE TAIPEI>

- ・CHINESE TAIPEI Regional Group の代表から回答があり、YEGsのメンバー2名を窓口として交流を進めたとのこと。今後は、国際委員担当者から直接コンタクトを取ってみる。なお、JSEG 側の YEGs対応メンバーの増員候補についても検討する。

<その他>

- ・IAEG Webinar での動画掲示について報告がなされた。
- ・今後、各国との交流を活性化していくことを想定した場合、事前に講演協力して頂ける候補者や災害地質研究部会(60 周年特集記事など)の協力を得た上で、発表用素材(英語版PPT)を常備しておくのが望ましい。

3) Council Meeting 関連

- ・学会誌の掲載記事について報告がなされた。

4) RWP&STA-IAEG 関連

- ・IAEG からの連絡内容について説明がなされた。

5) RMEGV 2021 関連

- ・本ワークショップの準備・開催を通しての課題等について、委員長執筆記事が学会誌に掲載予定とのこと。
今後の国際シンポジウム開催時の参考として、国際委員会内でも記事を共有する。

(2) その他

1) 学会誌 Bulletin 紹介

- ・学会誌 12 月号の掲載記事について説明がなされた。
- ・次号担当委員による準備が間に合わなかったため、学会誌 4 月号掲載に向けた原稿締め切りの 1 月末までに、原稿の準備を進める。
- ・半年に1回程度を目標に、投稿論文の分野別傾向を分析する。
- ・新スタイルでは翻訳時の担当者の負担軽減のため、原稿は最大2ページ程度とする。内容の一例として、各担当が自身の得意とする業務分野に着目し、同分野での Bulletin 掲載論文の紹介を絡めて、最近の国内動向との比較を行う、など。

2) 海外調査団報告書の著作権チェック

- ・公開用pdfの内容について総務委員会の承認を得たので、学会 HP(国際委員会ページ)へ掲示する。

3) 若手技術者を対象とした海外技術関連情報・知見の発信について

- ・学会事務局外での開催は当面難しいため、まずは Web 形式での開催に向けて準備を進める。なお、来年度の研究発表会で特別セッションに加えてもらう場合は、来年2月頃までに内容を検討しておく必要がある。

4) ダイバーシティ推進特別委員会

- ・令和3年度第6回委員会の議事録について説明がなされた。
- ・今後は、国際委員会による企画「若手技術者向けの海外技術関連情報の提供」との共催も検討する。

5) 海外シンポジウム

- ・現在、学会 HP に掲載中の情報について説明がなされた。適宜内容を最新情報に更新した上で、JSEG_HP のトップページ及び学会 NL での周知を手配する。

6) 国際会員情報(メールアドレス不明者)

- ・メールアドレス不明の5名について、引き続き情報収集を行う。

4. ホームページ関係

(1) JSEG 英語版 HP

- ・今後の HP 更新担当のうち、掲載コンテンツの検討は担当委員が主体となって進める。〕
- ・国際委員会における今後の SNS 活用については、広報・情報委員会の動向に合わせて対応する。
- ・直近での新たな試みとして、国内災害情報の速報的な情報提供(SNS)や災害調査団写真集コーナー新設(HP)などの対応準備を進める。

(2) JSEG 日本語版 HP

- ・更新状況について確認した。引き続き、必要に応じて更新を行う。

5. 海外情報の共有

- ・「海外アラカルト④_外国籍の技術者から見た日本」の講演を行った。
- ・今後も継続するため、海外業務の経験豊富なメンバーへの協力を要請する。

6. 重要案件の対応

下記の各活動について、2022年1月末を目処に素案を作成する。

※秋の研究発表会:セッション申込みは2月末まで。

(1) 韓国・CHINESE TAIPEI Regional Group との交流推進

- ・本活動は、下記(2)とのセット対応も含めて検討する。

(2) 若手技術者向けの海外技術関連情報の発信

- ・秋の研究発表会で特別セッションを設け、JSEG 講演者(6名程度)と海外招待者2名(KSEG, CHINESE TAIPEI RG)の発表、パネルディスカッションの開催など。(ダイバーシティ特別委員会との共催も検討)

(3) HP等での海外発信用コンテンツの作成

- ・学会 Facebook の利活用方法など。
- ※災害調査団速報も含むため、災害地質研究部会への英訳作成協力を要請する。

7. その他

- ・次回委員会(令和3年度_第5回)は、令和4年2月中旬に開催する方向で調整する。

以上